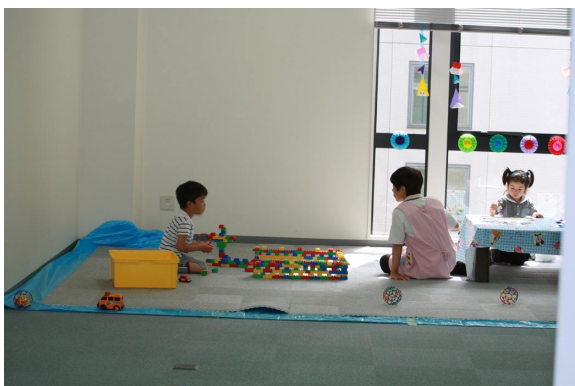


## 第1回女性医師の会フォーラム

渡辺 弥生

平成18年3月に結成した女性医師の会は、2ヵ月に一度委員会を開き、多くの問題解決に向けて検討しています。このたび平成19年6月9日午後2時から兵庫県医師会館で第1回女性医師の会フォーラムを開催しましたので報告します。参加者は142名で、多くの先生が来て下さったことに感謝しています。

女性医師が参加しやすいようにするため、託児所の希望がある方はお申し込み下さいとパンフレットに書きました。県医師会館の会議室に託児室を作り、委員の先生の病院から保育士さんに来て頂き、何人かの先生が子どもさんを預けられました。医師会館に託児室を設置する試みは初めてであり、事務局も準備が大変であったと思いますが、県医師会の行事に育児中の女性医師が参加出来る機会が増えることは女性医師の会としては一歩前進です。現在、地区医師会では小児科のフォーラムなどで託児室を設置するところもあります。これからの県医師会行事には託児室を視野に入れて考えて頂きたいと思います。



フォーラムのメインテーマは「女性医師の輝ける未来のために」です。基調講演は前少子化・男女共同参画担当大臣で衆議院議員の猪口邦子氏です。谷澤常任理事が司会をされ、西村会長挨拶のあと、女性医師の会会長安井先生が猪口氏の紹介をされました。猪口氏は少子化・男女共同参画担

当大臣としての日々について講演されました。活発な話し方で分かりやすく、皆熱心に聞いておられました。猪口氏はご自分の経歴から入られ、2002年に軍縮会議日本政府代表部特命全権大使として2年間ジュネーブに赴任されたこと、2005年に衆議院議員に当選され、すぐに少子化・男女共同参画大臣となられ、多くの活動をされたことを話されました。平成11年6月に男女共同参画基本法が公布・施行された。この基本法に基づいて政策を進めている。男女共同参画の現状は、2005年のGEM（ジェンダー・エンパワーメント指数、女性が政治および経済活動に参加し、意志決定に参加できるかどうかを測るもの）は世界80カ国中43位と低く、後進国並みで、各分野における女性の参画状況の割合が低い。この点を変えていかないと国が発展しない。医師について言及すると、勤務医の占める女性の割合が若い世代で増えている。医師不足に対応するためにも子育て期の仕事と育児の両立支援、男性医師を含めた働き方の見直しが重要である。それらが少子化対策に繋がると話されました。大臣の立場で物事を決定し邁進するのは膨大なエネルギーと努力が要りますが、少子化対策に熱意を示し、何事も前向きに熱心に取り組まれる姿勢に会場にいる人は皆感動し、猪口氏から強いパワーを頂いたような講演でした。

第2部のシンポジウムは「女性医師の働く環境改善に向けて」です。4人のシンポジストの先生にお話を伺いました。姫路聖マリア病院小児科部長の河田知子先生は、兵庫県医師会のドクターバンク設立時の女性医師へのアンケート結果と、勤務されている姫路聖マリア病院の現場の状況を話されました。アンケート結果では、女性医師が休職・離職する理由は出産と育児であり、職場に復帰出来た医師は、保育所などの保育環境の充実、当直免除や外来勤務のみといった多様な勤務形態に恵まれ、職場の理解がありました。これらの条件を雇用者和其他の医師が受け入れる事が出来れば職場復帰は可能であると述べられました。病



院小児科の入院収入は DPC（定額）と小児入院医療管理加算です。常勤医師 3 名で小児入院医療管理加算 2 を請求していましたが、1 人の医師の退職で常勤医師 2 名になり、その結果管理加算 3 となり収入減になりました。非常勤医師の合計勤務時間が 1 週間 24 時間あれば常勤医師 1 名とみなすという規定があり、非常勤医師を探し、常勤 1 名の勤務時間になるようにして収入減を免れたことを話されました。病院は勤務医不足であるが、非常勤の女性医師を採用することが勤務医不足の解消に役立つのではないかと言われました。

神戸大学医学部皮膚科教授の錦織千佳子先生は、今なぜ女性医師の就労対策が必要かという問題を提起されました。大学は教育の場であり、医師を育てる場です。健全な教育には女性の意見を入れることが必要です。生殖、遺伝子操作、遺伝子解析といった委員会では女性医師が必ず一人は入らなければならないという規則もあります。数年までは大学の教室から地域の病院に産休・育休の代替医師を派遣してきましたが、研修医制度改革以降の大学病院は医師不足になり、代替医師を十分に補充出来ない状態です。これを解決する方法の一つは女性医師に継続して働いて頂くことです。しかし大学は重症患者が集中するため、現在の保育所ではその勤務形態の多様性に十分な対応が出来ません。大学院生、研究生も診療に従事し、大学病院の人手不足を補ってくれていますが、保育所を利用しようとしても入所順位は下の

方です。多様な勤務に対応出来る保育所の充実が必要です。

大学病院としての育児支援策は、保育所周辺環境の充実、勤務形態の柔軟さ、女性研究者のモチベーション維持、中途退職者への復帰教育であり、これらの意識改革は学生時代からなされるべきです。

大阪厚生年金病院院長清野佳紀先生は、病院長の立場からの話題提供をされました。出産後に 2 割の女性医師が辞める。これは勤務医不足を助長しているので何とかしなければならない。解決すべき課題は子育て支援、勤務制度面の改善、病院の拠点化と地域連携、生涯教育、再教育支援である。これらの問題に真剣に取り組むことで病院の全職員の勤務条件を緩和し働きやすい職場になる。病院を維持していくためには医師数が必要で、そのためには働きやすい職場にしないと人が集まらない。現在、育児中の女性医師や看護師の労働時間短縮、駐車場の優先使用、院内保育所整備、病児保育室整備を実施し、24 時間のコンビニを設置している。これらは育児中の女性医師だけでなく、男性医師や結婚前の女性医師、看護師にも人気がある。子育て支援を充実させると医療収益も向上すると話されました。

兵庫県理事の清原桂子様は県行政の立場から話されました。現在働く女性は第一子出産で 7 割が辞めていく。子育てが終わると再就職する。そこに賃金格差が出来る。育児をしながら働く人には保育所が必要で、ファミリーサポートセンター、夜間保育、病児保育の充実に取り組んでいる。昨年から認定こども園を開設し、夜 8 時まで預かっている。195 社の企業と協定し、子育て支援を応援し、アドバイザーを派遣している。この子育て支援がうまくいっている会社には有能な人材が集まっている。女性が政策の決定に参加し、どんどん意見を言わなければ自分達の問題は聞いてもらえない。女性が基幹労働力として働き子どもを育てる、そのような社会にしない限り少子化が進行

すると話されました。

フロアから4人の先生が質問・話題提供されました。お1人は、但馬で医師として子どもを見てもらいながら働いていた。その時に思ったことは、医師不足の地域では医師は朝から晩まで働いて当然という世間の風潮がある。医師は家族を犠牲にしてでも働かなければならない。これではとてもやっていけないことを、世間に伝達する手段があればして頂きたいと発言されました。お1人は、大学で研究生として研究生を送っている。子どもが3人いて認可保育園へ預けようとしたが、働いていない人は預ける資格がないと言われた。何度も足を運んでラッキーもありやっと預かってもらった。このような状況にある女性医師も多いと思うので、医師会から保育園問題を後押しして頂きたいと言われました。お1人は、子どもが生まれた時、1歳健診で異常がなければ保育園に預けられると言われた。それからバリバリと手術もして働いていた。他の病院へ転勤したとき、子どもがいるから術後の呼び出しがかけられないので手術をしないように言われた。子どもが肺炎になった時、早く帰ろうとしたらご主人に迎えに行ってもらったらと無茶なことを言われた。今の病院は理解があり喜んで働かせて頂いている。このような人も多いと思うので医師会から色々な情報発信をして頂きたいと言われました。最後のお1人は、女性は子どもが出来たら仕事を辞めなければならないと言われ子どもを作らずバリバリと働いていたが、40過ぎて息子を授かった。それまで後輩の女性医師が子どもの病気で早く帰ると言うのを冷たい目で見えていたが、なんとひどいことをしていたのだらうと反省している。何でも経験しないと分からないが、女性医師同士も理解しあえるようにならなければいけないと発言されました。

これらの質問に対して、清野先生は、色々な人がいるので自分で出来るだけ多くの情報を集め、自分に合った病院を選ぶ必要があると言われまし



た。清野理事はご自分の出産育児体験から社会の無理解を挙げ、それでも色々な良い出会いがあるので、しなやかに、したたかに、めげずに傷つかないという方針でがんばって下さいと言われました。

神戸新聞論説副委員長の慶山充夫様にコメンテーターとして来て頂き、多くのコメントを頂きました。慶山様は、新聞社でも同じ問題を多く抱えています。女性医師が辞めなくても済む環境作りが大切なことが本日のフォーラムでよく分かりました。医療で表に出てくるのは先端医療やどの病院でどのような手術を何例しているかといった表の面であり、病院で働く医師、特に女性医師がそんなに大変な状況に置かれているとは最近まで知りませんでした。この問題は市民の皆様はあまりご存知ないと思うので知って頂きたい。これからマスコミとしてもこの問題を取り上げて行きたいと言われました。そして6月18日の神戸新聞社説に「女性医師」のタイトルで書いて下さいました。

「第1回女性医師の会フォーラム」は成功裡に終わりました。女性医師の会はこのフォーラムで検討した多くの課題に取り組んで行きたいと思っています。

《加古川市加古郡》